

「恵みの雨！ ワクチンの無償提供」

歐 元韻

新型コロナウイルス感染封じ込めの優等生、と言われていた台湾でも、今年5月中旬以降、一気に感染者が増加しました。

はじめに航空会社の乗組員が海外から台湾へ入境後に利用する、外出制限期間用の隔離宿泊ホテルでクラスターが発生し、その後、台湾北部を中心に感染が広がりました。政府も直ちに台湾全土にコロナ警戒レベルの第3級を発令し、人々に外出自粛を強く呼びかけました。3度の期間延長を経て、6月23日時点での警戒期間は7月12日まで続きます。ちなみに5月11日から6月14日までの台湾国内のコロナ感染者は累計11,907人、6月16日の発表では死者が累計478人でした。この人数は今後も増え続ける可能性が十分にあり、日本と比べるとかなり少ないようにもみえます。

しかし、6月15日付けの日本経済新聞では、台湾の致死率3.3%は世界平均(2.2%)及び日本(1.8%)の数値を大きく上回っています。このため、コロナ警戒レベル第3級下の台湾では、日本の緊急事態宣言下の制限よりもっと厳粛なロックダウンが街のあちらこちらで見受けられます。多数のデパートや映画館等の商業娯楽施設が密集する繁華街や台北市信義区一帯は、土日のお昼時にもかかわらず、お店がオープンしていても利用する人が全くいないという、一種異様な光景が見受けられます。現在、経済活動や交通機関こそストップはしていませんが、県を跨ぐ移動の自粛、学校閉鎖、外出時は常時マスクを着用、屋内5人以上・屋外10人以上の社交上の集まりは禁止、公共の場での連絡先の登録の実施等が行われています。その他では企業も在宅勤務を奨励し、銀行やスーパー等での利用者人数制限、全飲食店での店内利用禁止(テイクアウトのみ可)など、都市圏での商業活動にも甚大な影響が出ています。

＜ワクチンの接種と調達問題＞

今回の新型コロナウイルス感染者の急増を受け、改めてワクチン接種の問題が再浮上してきました。以前からワクチン接種が必要なことはわかっていたながら、政府による実施対応が非常に遅かったことは拭えません。6月16日付けの日本経済新聞によると、ワクチン接種に關しても、国、地域別での接種状況を示すデー

タの中に「台湾」がランク入りした形跡は残念ながらありません。蘋果日報が発表した6月10日時点での各国のワクチン接種進捗状況報告では、台湾の対人口接種率は僅か3.1%で、シンガポール43.9%、韓国19.6%、日本11.5%と諸外国の数値と比較して、ワクチン接種率の低さは否めません。この結果は、現実問題として台湾の国民約2,300万人の接種完了に必要なワクチンが確保できていない、という重大な課題の存在を示しています。

5月28日には、台湾の衛生福利部長(衛生相に相当)陳時中氏が、10月末迄に台湾全人口の60%に少なくとも1回目のワクチン投与を実施することを目標として掲げましたが、実際はワクチン未確保の厳しい現実があり、各方面からも、早急にワクチンを購入し接種を求める声が続々とあがり、政府としてもその対応策に苦慮していました。こうした切羽詰まった状態の中、日本より台湾へ124万回分のワクチンが無償提供されるとの嬉しい知らせが届き、その後速やかにワクチンが到着したというニュースが台湾全土を駆け巡り、人々は改めて日台関係の深さを認識しました。今回のワクチン寄贈に対して、台湾の人達は好意的な反応を示し、日本への感謝を示すメッセージが連日多数発信されたことが、その証です。「ワクチンの無償提供は恵みの雨です！台湾は永遠に忘れない！」(台湾・蔡英文総統の言葉より引用)



世界まんがセンバツ
ストーリー漫画最優
秀賞余韋徳の作品



6月13日付け
産経新聞の台湾発
「ありがとう日本！」
の新聞広告